

菅野フミさん (佐須)が歌集「想い出」を発行

短歌で綴つた人生、1冊の本に



▲歌集を発行した菅野フミさん

菅野フミさんは大正3年10月生まれ。フミさんは自身短歌が好きで、短歌を作り始めたきっかけを「私の家は開墾された田んぼをもっていて、そこまでの道が遠かったんです。田んぼに仕事に行く往復の間に作っていたら、いつの間にか習慣になりました」と話します。今

も普段の生活から旅先まで筆記用具を持ち歩き、いつも短歌を考えているというフミさん。フミさんの短歌は、これまで農協の発行する広報紙で取り上げられたり、警察署の交通安全標語コンクールに入賞したりとその実

力は証明済み。短歌や標語の入選でもらった感謝状も数十枚にのぼるそうです。

そもそも歌集を作るきっかけになつたのは、子供さんやお孫さんにすすめられて。「形見にでもする気持で作つてみたらと

言われるまでは、本にするなんて夢にも思いませんでした」とフミさん。

編集を行つたのは、現在は関東に住んでいるお孫さんの良一さんと淳さん。製作期間約1年、今年1月に発行となり、フミさんの手元に届いたのは2月の中頃。50冊届いた歌集「想い出」を早速お世話になった人や知人、隣近所に配つたとのこと。

夫の勇さんはフミさんのことを「気が付くと一人で静かに帳面を開いて短歌を作つています。まだ

まだやる気はあるようだし、長生きの秘訣なのかも知れません」と話します。



▲ご家族と

「想い出」は、ページ数115ページ。中にはフミさん自身が作った短歌が約500作ほど掲載され、また短歌を作つたときの想い出などが一緒に綴られており、「想い出」のタイトルどおりの内容となっています。フミさんの短歌は、生活の中で感じたことやお世話になつた知人を詠んだもの、旅先での情景、感想などが素朴な言葉で詠われており、フミさんの感情やその情景が素直に伝わってきます。

歌集「想い出」▶



今、原町市在住の娘さんは2冊目の歌集の制作をすすめられているフミさん。今後も短歌を作り続けていくそうですし、今回の「想い出」はフミさんの作った短歌のまだほんの1部とのこと。2冊目の発行もそう遠くはないかも知れません。